

専門基礎分野

授業科目名	癒しの科学		担当教員	丸山 久子
開講時期	3年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間
				1単位／15時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	ケアの隣接領域である「癒し」について幅広く学ぶ。看護職に関係の深い「癒し」について科学的な視点から基礎知識を習得する。
目標	癒しの概念を理解し、看護に活かせる方法を知る。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	「癒し」の概念 「癒し」と看護	「癒し」とは。 「癒し」と看護
2	/	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ
3	/	「癒し」の種類・方法	アロマセラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他
4	/	「癒し」の体験	ヒーリング
5	/	「癒し」の体験	アロマセラピー リフレクソロジー
6	/	「癒し」の実践	整膚
7	/	「癒し」の実践とまとめ	「癒し」を看護に活かすには
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	なし		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	看護過程			担当教員	丸山 久子
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1 単位/30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎看護技術の習得のため実践的な授業を行う

目的	看護の目的を達成するために、看護過程のプロセスを理解する。
目標	1. 看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる。 2. 健康上の問題を明らかにし、問題を解決するための一連の過程が理解できる。 3. 模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護過程とは	看護過程とは ①看護過程とは ②看護過程の意味
2	/	看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点
3	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング
4	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション
5	/	看護過程展開の各段階	①アセスメント(情報の収集と分析) ②看護問題の明確化(看護診断)
6	/	看護過程展開の各段階	③看護計画 ④実施
7	/	看護過程展開の各段階	⑤評価
8	/	看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点
9	/	看護記録	③看護記録の構成
10	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	①看護過程ってなに ②ヘンダーソンが考える看護 ③ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の学び方
11	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	④ヘンダーソンの考えに基づいて看護過程を使ってみよう ⑤基本的看護の充足した状態および情報収集
12	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
13	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
14	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際」(ヌーヴェルヒロカワ) 江崎フサ子他「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」(ヌーヴェルヒロカワ)	

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅲ		担当教員	丸山 久子	
開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1単位/15時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のため実践的の授業を行う。

目的	基礎看護学実習Ⅱの実習に向けて、看護過程を確認し、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を高めるように学習する。
目標	1. ペーパーペイシエントの情報収集・アセスメントができる。 2. 根拠に基づいた援助計画が立案でき、安全・安楽に配慮した援助が実践できる。 3. 実践した援助内容についてリフレクションができ、基礎看護学実習Ⅱに向けて主体的な学習ができる。
評価方法	1.筆記試験(80%) 2.授業への参加態度・状況(20%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	シミュレーション技術Ⅲのガイダンス	①基礎看護学実習Ⅱに向け、シミュレーション学習の意味を説明 ②ペーパーペイシエント提示
2	/	情報収集アセスメント	グループワーク ①過不足な情報収集を考える ②情報を整理しアセスメントを行う
3	/	問題点の抽出	グループワーク: アセスメント内容から問題点を見出す
4	/	援助計画の立案	グループワーク:個別性に配慮した援助計画を立案する
5	/	援助の実施①	援助計画に基づく援助の実施
6	/	援助の実施②	援助計画に基づく援助の実施
7	/	援助計画評価(技術試験)	リフレクション ①グループでの援助計画を振り返り、計画の追加・修正を行う ②基礎看護学実習Ⅱに向け、不足している学習を補足する
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		
備考:			

専門分野

授業科目名	看護学概論 I			担当教員	小林 幸子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位/時間	1 単位/30 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	看護学の基礎概念である人間・環境・健康から看護の歴史の変遷、理論を通して、「看護とは何か」について理解を深めることができる。また、専門職としての看護の役割と看護活動の実践が理解できる。
目標	1. 歴史的変遷や看護論を通して、看護の概念について理解できる 2. 看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護とは	①看護の本質 ②看護の役割と機能
2	/	看護とは	③看護の継続性と情報共有
3	/	看護の対象の理解	①人間の「こころ」と「からだ」
4	/	看護の対象の理解	②生涯発達しつづける存在としての人間 ③人間の「暮らし」の理解
5	/	国民の健康状態と生活	①健康のとらえ方
6	/	国民の健康状態と生活	②国民の健康状態 ③国民のライフサイクル
7	/	看護の提供者	①職業としての看護 ②看護職の資格・養成制度・就業状況
8	/	看護の提供者	③看護職者の継続教育とキャリア開発 ④看護職の養成制度の課題
9	/	看護における倫理	①現代社会と倫理 ②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
10	/	看護における倫理	③看護実践における倫理問題への取り組み
11	/	看護の提供のしくみ	①サービスとしての看護 ②看護サービス提供の場
12	/	看護の提供のしくみ	③看護をめぐる制度と政策 ④看護サービスの管理 ⑤医療安全と医療の質保証
13	/	広がる看護の活動領域	①国際化と看護
14	/	広がる看護の活動領域	①災害時における看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	茂野香おる他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論」(医学書院) 助川尚子訳「ナイティンゲール看護覚え書き書 決定版」(医学書院)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	臨床看護学総論		担当教員	小林 幸子・櫻岡 志津子	
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1単位/30時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎看護技術の習得のため実践的な授業を行う

目的	健康上のニーズに着目し、健康状態の経過に基づく看護や症状に対する看護の基本原則について学ぶ。
目標	基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する。
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
2	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
3	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
4	/	健康状態の経過に基づく看護	健康状態と看護 健康の維持・増進を目指す看護
5	/	健康状態の経過に基づく看護	急性期における看護 慢性期における看護
6	/	健康状態の経過に基づく看護	リハビリテーション期における看護 終末期における看護
7	/	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護
8	/	主要な症状を示す対象者への看護	循環に関連する症状を示す対象者への看護
9	/	主要な症状を示す対象者への看護	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 排泄に関連する症状を示す対象者への看護
10	/	主要な症状を示す対象者への看護	活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護
11	/	主要な症状を示す対象者への看護	コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 安楽に関連する症状を示す対象者への看護
12	/	治療・処置を受ける対象者への看護	輸液療法を受ける対象者への看護 化学療法を受ける対象者への看護 放射線療法を受ける対象者への看護
13	/	治療・処置を受ける対象者への看護	手術療法を受ける対象者への看護 集中治療を受ける対象者への看護
14	/	治療・処置を受ける対象者への看護	創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト: 香春知永他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論」(医学書院) 北里大学病院看護部編「ナースポケットマニュアル」(医学書院)			
参考文献: 参考となる文献は、授業内で適宜提示する。			

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ			担当教員	小林 幸子
開講時期	3年次前期	授業形態	講義	単位/時間	1単位/15時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎看護技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	暮らしの場で行われる医療処置とその管理、日常生活に必要な看護について科学的根拠に基づいて事例展開を行ない、在宅看護の臨床判断能力を養う。
目標	1. 訪問看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅における療養上のリスクについて理解する。 3. 事例に沿った看護過程を展開する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	地域・在宅看護実践の場と連携	さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし おもな地域・在宅看護実践の場 1 住まいで提供される看護 2 通所サービスの場で提供される看護 3 短期入所サービスの場で提供される看護
2	/	地域・在宅看護実践の場と連携	おもな地域・在宅看護実践の場 4 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護 5 施設サービスの場で提供される看護 6 医療機関で提供される看護 7 地域のなかで提供される看護
3	/	地域・在宅看護実践の場と連携	地域・在宅看護における多職種連携 1 医療専門職との連携 2 福祉専門職との連携 3 介護支援専門員(ケアマネジャー)との連携 4 多職種連携からのネットワークづくり
4	/	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 訪問看護の制度
5	/	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	地域保健にかかわる法制度 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関連する制度
6	/	在宅看護過程の展開	紙上事例を用いて看護過程の展開をする。
7	/	在宅看護過程の展開	紙上事例を用いて看護過程の展開をする。
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ			担当教員	高橋 真希
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位/時間	1単位/30時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・保健師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のために授業を行う

目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 看護過程の展開をとおして、子どもと家族の看護について理解できる。 3. プレパレーションの意義と方法について理解できる
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	悪性新生物と看護	看護総論 造血器腫瘍 脳腫瘍 他 疾患をもった子どもの看護
2	/	腎・泌尿器疾患および生殖器疾患と看護	先天性腎・尿路異常 急性・慢性腎臓病 他 疾患をもった子どもの看護
3	/	神経疾患と看護	神経系の先天異常 痙攣性疾患 他 疾患をもった子どもの看護
4	/	運動器疾患と看護	先天性股関節脱臼 脊柱側弯症 骨折 他 疾患をもった子どもの看護
5	/	皮膚疾患と看護	母斑 魚鱗癬 湿疹 皮膚真菌症 他 疾患をもった子どもの看護
6	/	眼疾患と看護	結膜炎 先天性眼瞼下垂 斜視 他 疾患をもった子どもの看護
7	/	耳鼻咽喉疾患と看護	先天性難聴 外耳・中耳の疾患 咽頭の疾患 喉頭の疾患 他 疾患をもった子どもの看護
8	/	精神疾患と看護	発達障害 神経症圏の疾患 統合失調症 他 疾患をもった子どもの看護
9	/	事故・外傷と看護	頭部外傷 誤飲・誤嚥 溺水 熱傷 他 疾患をもった子どもの看護
10	/	事例による看護過程の展開	《1型糖尿病の子どものケア》
11	/	事例による看護過程の展開	《1型糖尿病の子どものケア》
12	/	演習	プレパレーション作成
13	/	演習	プレパレーション作成
14	/	演習	プレパレーション発表
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	奈良間美保編「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論」(医学書院)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅲ (食事と排泄)		担当教員	高橋 真希・篠塚 由香理 宇田川 由美子	
開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1単位/30時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・保健師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術を基に、基礎技術の習得のための実践的な授業を行う

目的	関連する看護技術の科学的根拠を学び、共通基本技術の意義に基づいた方法を習得する。
目標	1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法と食事介助の具体的な援助方法が理解できる。 2. 排泄の意義のメカニズム、アセスメントの方法と具体的な援助方法が理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	食事援助技術	食事援助の基礎知識 人間にとっての食事の意義 栄養状態のアセスメント	講義
2	/	食事援助技術	医療施設の食事の特徴と援助の方法	講義
3	/	食事援助技術	食事摂取の介助	講義
4	/	食事援助技術	摂食・嚥下訓練 口腔ケア	講義
5	/	食事援助技術	非経口的栄養摂取の援助—経管栄養法、中心静脈栄養法 食事介助の具体的な援助 口腔ケアの実際	演習
6	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の基礎知識	講義
7	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の介助の実際	講義
8	/	排泄援助技術	導尿 一時的導尿・持続的導尿	講義
9	/	排泄援助技術	排便を促す援助 洗腸(グリセリン洗腸)・摘便・ストーマケア	講義
10	/	排泄援助技術	トイレ・ポータブルトイレ・床上排泄(便器・尿器介助)	演習
11	/	排泄援助技術	導尿・排便を促す援助	演習
12	/	排泄援助技術	おむつ交換・陰部洗浄	演習
13	/	排泄援助技術		演習
14	/	排泄援助技術		演習
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。			
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)			
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ			担当教員	吉江 恭子
開講時期	2年次後期	授業形態	講義	単位/時間	1単位/30時間

実務体験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のための実践的な授業を行う。

目的	褥婦の正常な経過や生理的变化について学ぶ正常に経過するための援助、異常児の援助について科学的な根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. 産褥時の女性への看護を理解できる。 2. 妊娠・分娩・新生児・褥婦の異常を知り、対象に応じた看護がわかる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	新生児期における看護	新生児の生理 ①新生児とは ②新生児の機能
2	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ①新生児の診断
3	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ②新生児の健康状態のアセスメント
4	/	新生児期における看護	新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護
5	/	新生児期における看護	③生後1カ月健診に向けた退院時の看護
6	/	産褥期における看護	産褥経過 ①産褥期の身体的変化 ②産褥期の心理・社会的変化 褥婦のアセスメント
7	/	産褥期における看護	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護
8	/	新生児の異常と看護	新生児仮死 分娩外傷 低出生体重児
9	/	新生児の異常と看護	高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症
10	/	産褥の異常と看護	子宮復古不全 産褥期の発熱 産褥血栓症 精神障害 異常のある褥婦の看護
11	/	産褥の異常と看護	育児に困難さをかかえる母親への看護 児をなくした褥婦・家族の看護
12	/	産褥の異常と看護	メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援
13	/	演習 沐浴	沐浴の実際
14	/	演習 沐浴	沐浴の実際
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:	森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」(医歯薬出版株式会社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術 I		担当教員	吉江 恭子	
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1 単位/15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のために実践的な授業を行う。

目的	基礎看護学実習 I -1 の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容を確認し、活用できるようにする。
目標	1. 療養者を取り巻く環境・看護師の役割や業務内容を理解する。 2. シミュレーションを通して学習したコミュニケーション技術を利用できる。
評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. 技術試験 (20%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	基礎看護学実習 I -1 に向けて、看護学概論および基礎看護学方法論 I・II で学んだ内容を再確認する 〈事前学習課題の提示〉
2	/	シミュレーション学習①	グループワーク: ロールプレイ学習・演習①
3	/	シミュレーション学習	グループワーク: ロールプレイ学習・演習②
4	/	シミュレーション学習	グループワーク: ロールプレイ学習・演習③
5	/	シミュレーション技術①	演習計画書作成 〈演習課題〉患者訪室時～援助の説明～退室までのコミュニケーション
6	/	シミュレーション技術②	技術演習 〈演習課題〉患者訪室時～援助の説明～退室までのコミュニケーション
7	/	シミュレーション技術③	技術試験/リフレクション 演習を振り返り、基礎看護学実習 I -1 における自己の課題を明確にする
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第 4 版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅱ		担当教員	吉江 恭子	
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位/時間	1 単位/15 時間

実務経験のある教員等による授業科目

看護師・助産師として総合病院等での実務経験から得た知識・技術をもとに、基礎看護技術の習得のため実践的の授業を行う。

目的	基礎看護学実習Ⅰ-2の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容や看護技術を確認し、対象者に実施できるように学習する。
目標	1. フィジカルアセスメントができるようになる。 2. 日常生活援助の基本的な技術を模擬患者に対して安全安楽に実践できる。 3. 自身の技術不足を明確にし、振り返りができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	①シミュレーション学習の目的・目標を理解する。 ②失敗が許される学習環境下で安全な看護を提供する意味について説明する。
2	/	シミュレーション学習	事例① 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
3	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
4	/	シミュレーション学習	事例② 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
5	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
6	/	グループワーク	事例①、事例②に対して実施した内容から自己のスキルについて振り返りをする。
7	/	全体のまとめ	基礎看護学実習Ⅰ-2に向け、どのような姿勢で臨むかを皆でグループワークし、発表する。
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		